

羽田空港の新飛行経路に係る騒音低減策の推進及びRNP-AR方式対応機材の導入等に係る航空会社への要請

背景・目的

- 羽田空港の新飛行経路については、その運用開始後も周辺地域の皆様から経路の固定化回避及び騒音負担の軽減に関するご意見をいただいているところ、「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」を開催し、地域の負担軽減に向けた検討を実施中。
- これまでの検討会における議論を踏まえ、RNP-AR方式を用いた将来的な固定化回避の可能性について検討しているところ、課題の一つとして航空会社における機材対応が指摘。加えて、その実現までの短期的な取組として、航空機の騒音低減に資する取組を一層推進する必要があることから、4月30日付で航空会社に対して、以下3点を文書で要請。

要請内容

①騒音低減に資する機材の選択及び特定機材への騒音低減装置(AFD)の装着

- 低騒音機材 (B787、A350等) の選択
- A320シリーズにおいて開発されている騒音低減装置である エア・フロー・ディフレクター (AFD) 装着

【AFD】

エア・フロー・ディフレクター

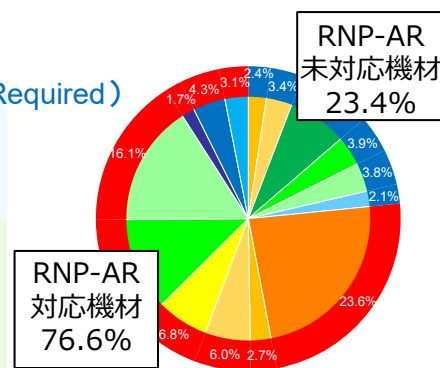
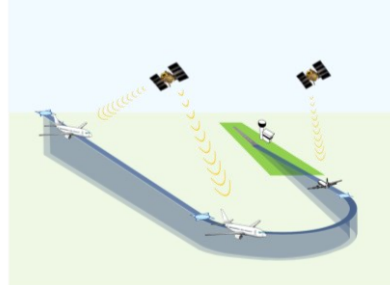


②RNP-AR方式対応機材の導入

- 検討会にて、航空会社におけるRNP-AR方式の未対応機材について指摘
(本邦事業者は23.4%、外国事業者は29.0%が未対応)
- 機材更新にあたり、RNP-AR方式に対応した機材の導入

【RNP-AR】

(Required Navigation Performance-Authorization Required)



<本邦事業者の対応状況>

③ RNP-AR方式対応機材の導入状況及び騒音低減装置(AFD)の装着状況に係る調査

【概要】

測位衛星からの信号を元に、航空機に搭載されたコンピュータが自機の位置を把握しながら計算して飛行する、精度の高い曲線経路を含む進入方式

：今回の要請の該当箇所

1. 海上ルートの実現について

- 海上ルートの実現に資する研究（地域固有の気象条件を活用した曲線半径小回り化等）について国内外の研究機関等との連携を推進するなど、海上ルートの実現可能性を追求する。
- 将来的な海上ルートの実現の際のRNP-AR方式の導入に向けて、機材更新の際には同方式に対応した機材とするよう航空会社に促すなど、同方式の導入の際の課題解決に向けた取組みを推進する。
- 加えて、RNP-AR方式への対応状況について、未回答の外国事業者を含めフォローアップを引き続き進めるとともに、羽田空港航空機衝突事故対策検討委員会の中間とりまとめで提言された対策を着実に進める。

2. 更なる騒音負担軽減について

- 低騒音機材の導入促進のため、更なるインセンティブが働くような仕組みの検討を進める。
- 海外の他空港でも推奨しているA320シリーズ向けの騒音低減装置等について、その導入を推進する。
- JAXAと海外メーカーが連携して開発を進めている騒音低減装置について、ICAO等における国際的な発信の強化等により認知度の向上を図り、実装への取組みを推進する。

3. その他丁寧な情報提供について

- 海外事例も踏まえ、ホームページをはじめとした情報提供の更なる充実化を図る。